市町村名	那覇市

沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート 【後年度発現事業】

事業名	第一牧志公設市場再整備推進事業（H26事業番号1-52、H27事業番号1-36、H28事業番号1-30、H29事業番号1-24、H30事業番号1-35、R1・R2事業番号1-20、R3事業番号1-18、R4・R5事業番号1-12）				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（1）－イ 地域・産業間連携による「稼ぐ力」と域内自給率の向上
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施年度	平成 26 ～ 令和 5 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）

事業内容

那覇市の観光振興に寄与する拠点施設である第一牧志公設市場を再整備することで、第一牧志公設市場を含めた中心市街地の賑わいの維持及び観光客の誘客を図る。実施内容は、第一牧志公設市場再整備事業基本計画の策定、新市場の実施設計、再整備期間中の仮設市場の賃貸借、新市場の供用開始に向けた商業支援である。

実施方法

■ 直接実施　■ 委託　□ 補助　□ 負担　□ その他（　）

事業期間中の予算額・執行額【単位:千円】

	～R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	合計
A. 予算現額	813,641	149,944	29,586	144,928	**1,138,099**
B. 執行済額	795,997	149,758	29,580	0	**975,335**
うち交付金充当額	624,961	119,806	23,664	0	**768,431**
執行率（%）(B/A)	97.8%	99.9%	100.0%	0.0%	**85.7%**

執行状況の説明

・新市場は令和5年3月19日に供用開始した。
・平成27年度は再整備手法の再検討が必要となったため翌年度に繰り越した。
・平成30年度は仮設市場の建設工事の完了が遅れたため翌年度に繰り越した。
・令和3年度は新市場の供用開始時期が遅延したため翌年度に繰り越した。
・令和5年度は市場再整備に伴い撤去されたアーケード再整備工事が遅れたため、再整備への補助を翌年度へ繰り越した。
・令和4年度までの執行委率は、98.2%となっており、概ね計画とおりに執行できている。

事業期間中の活動目標

活動目標（指標）		達成状況 R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
仮設市場賃貸借業務の実施	目　標	賃貸借の実施	賃貸借の実施	賃貸借の実施	賃貸借の実施	―
	実　績	賃貸借の完了	賃貸借の完了	賃貸借の完了	賃貸借の完了	―
商業支援業務の完了	目　標	商業支援の実施	商業支援の実施	商業支援の実施	商業支援の実施	―
	実　績	商業支援の完了	商業支援の完了	商業支援の完了	商業支援の完了	―
アーケード再整備補助の実施	目　標	―	―	―	―	アーケード再整備補助の実施
	実　績	―	―	―	―	R6へ繰越

事業期間中の成果目標

成果目標（指標）		進捗状況 R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
新市場の供用開始	目　標	賃貸借の実施 商業支援の実施	賃貸借の実施 商業支援の実施	賃貸借の実施 商業支援の実施	賃貸借の実施 商業支援の実施 供用開始	―
	実　績	賃貸借の完了 商業支援の完了	賃貸借の完了 商業支援の完了	賃貸借の完了 商業支援の完了	賃貸借の完了 商業支援の完了 供用開始	―
アーケード再整備補助の実施	目　標	―	―	―	―	アーケード再整備補助の実施
	実　績	―	―	―	―	R6へ繰越
新市場への年間来訪者数目標	目　標	―	―	―	―	256万人
	実　績	―	―	―	―	172万人

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標

成果目標（指標） □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況				
		R5年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
新市場への年間来訪者数目標	目　標	256万人				
	実　績	172万人				
	目　標					
	実　績					

状況説明

【R5年度】
・来訪者数調査を4日間実施。1日あたりの平均来訪者数4,961人に公設市場の営業日数347日を乗じ、年間来訪者数1,721,467人を算出。成果目標である256万人は達成できていない。

【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）	【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）
【R5年度】 ・新型コロナウィルス感染症の5類感染症移行は、来訪者数も回復傾向にあったことから、来訪者数の増加を期待していた。 　来訪者の増加に伴い、公設市場を含めた中心市街地の賑わいの維持及び観光客の誘客効果を見込み、年間来場者数の目標値（256万人）を設定したが、期待したコロナ前の回復数には及ばなかったことにより、達成できなかった。	【R5年度】 ・市場への来訪者数の増加、中心商店街の賑わいの維持及び観光客の誘客向上を図るため、市場事業者や周辺商店街と連携し、市場の魅力発信を強化する。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R5年度以降】
・市場への来訪者数の増加、中心商店街の賑わいの維持及び観光客の誘客向上を図るため、市場事業者や周辺商店街との連携及び市場の魅力発信を継続する。

市町村名	那覇市

沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート 【後年度発現事業】

事業名	貸切バス乗降場･待機場整備事業 （H30(繰越)事業番号1―36）				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-（2）-イ 観光客受入体制の整備
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施年度	平成30 ～ 平成31 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）
事業内容	貸切バスの国際通り周辺での路上駐車による交通混雑の緩和を図る。					
実施方法	■ 直接実施　■ 委託　□ 補助　□ 負担　□ その他（　）					

事業期間中の予算額・執行額【単位:千円】

	H30年度	○年度	○年度	○年度	合計
A. 予算現額	43,528	―	―	―	**43,528**
B. 執行済額	34,077	―	―	―	**34,077**
うち 交付金充当額	27,261	―	―	―	**27,261**
執行率（%）(B/A)	78.3%	―	―	―	**78.3%**
執行状況の説明	･H30年度は沖縄県との合意書締結の調整に不測の日数を要し、想定外の基本設計業務に係る手続き等により、年度内の事業完了が困難となったため繰越を行った。 不用額は、当初想定していた工事請負費について、仕様･数量の変更等による予定価格の減額と、落札差額（約90.5%）による入札執行残である。				

事業期間中の活動目標

活動目標（指標）		達成状況				
		H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
乗降場･待機場の整備 ①舗装工事 ②機械設備工事	目　標	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の実施	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の実施	―	―	―
	実　績	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の完了	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の完了	―	―	―
	目　標					
	実　績					
	目　標					
	実　績					

事業期間中の成果目標

成果目標（指標）		進捗状況				
		H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日平均流入台数：2割減	目　標	2割減	2割減	―	―	―
	実　績	調査未実施	調査未実施	―	―	―
	目　標					
	実　績					
	目　標					
	実　績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標

成果目標（指標） □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	○年度 目標/発現年度
県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日平均流入台数：2割減		目　標	2割減	2割減	2割減	―	―
		実　績	調査未実施	調査未実施	調査未実施	―	―
貸切バス乗降場･待機場の年間利用台数		目　標				50台	
		実　績				266台	
	状況説明	【R2年度】 ・貸切バス乗降場の供用開始と同時期に、新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の観光客が激減している。貸切バスの利用自体も激減している状況が続いているため、台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。（年間利用台数：6台） 【R3年度】 ・長引くコロナ禍の影響による観光需要低迷により、貸切バスの利用自体も少ない状況が続いている。台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。（年間利用台数：12台） 【R4年度】 ・外国人観光客受入再開や国内向け観光施策等により、令和4年9月から毎月の利用はあるも乗降場自体の利用台数は低迷。経年比較による周辺地域の流入台数の検証ができる状況にないことから、令和5年度の成果目標（指標）を見直した（年間利用台数：25台）.。 【R5年度】 ・利用台数の増加に向け利用団体へのwebアンケートを実施し、利用料金・利用時間を見直した。その結果、利用台数の大幅増加に繋がった。（年間利用台数：266台）.					

【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）	**【完了後】改善措置等の検討** （事業効果の更なる向上等）
【R2年度】 ・昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外観光客の激減し、貸切バス利用自体も激減している状況が続き、台数計測による検証ができる状況にない。 【R3年度】 ・R2年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の観光客数の減少は続いており、貸切バスの利用も低迷。依然、台数計測による検証ができる状況にない。 【R4年度】 ・観光需要は徐々に回復傾向にあり、以前よりも貸切バスの乗車は見受けられるが、乗降場の利用は低迷。周辺地域の流入台数計測による検証ができていない。 【R5年度】 ・貸切バス乗降場の利用台数が増加していることから、周辺地域の路上駐車による交通混雑の緩和に一定の効果があったと思われる。	【R2年度】 ・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【R3年度】 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【R4年度】 ・旅行会社及びバス会社等各関連団体への周知や市公式HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。 【R5年度】 ・旅行会社、バス会社等の関連団体への周知や市HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R2年度】
・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

【R3年度】
・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

【R4年度】
・旅行会社及びバス会社等各関連団体への周知や市公式HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。
また、成果目標（指標）については、令和5年度は「一日平均流入台数」から「年間利用台数」に変更する。

【R5年度】
・旅行会社、バス会社等の関連団体への周知や市HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。

市町村名	那覇市

沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート 【後年度発現事業】

事業名	大規模火災等対応資機材整備事業				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第 4 章－ 2 － (4) － ア 危機管理体制の強化
担当部課名	消防局	警防課	事業実施年度	令和 4 ～ 令和 5 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―10―(3)
事業内容	大規模火災等の消防活動を含む消防力の強化と、県民及び観光客の身体を火災等の外的危険から早期救出し、保護することを目的として資機材の整備を行う。					
実施方法	■ 直接実施　□ 委託　□ 補助　□ 負担　□ その他（　）					

事業期間中の予算額・執行額【単位:千円】

	～R4年度	○年度	○年度	○年度	合計
A. 予算現額	19,033				19,033
B. 執行済額	16,247				16,247
うち交付金充当額	12,997				12,997
執行率（%）(B/A)	85.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	85.4%
執行状況の説明	不用額2,786千円：資機材3品それぞれの入札を実施した結果、落札差金による。				

事業期間中の活動目標

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	○年度	○年度	○年度
1.資機材入札・契約・納品	目　標	実施				
	実　績	実施				
2.資機材管理指針の策定	目　標		策定			
	実　績		策定			
	目　標					
	実　績					

事業期間中の成果目標

成果目標（指標）		進捗状況 R4年度	R5年度	○年度	○年度	○年度
【資機材の適正配置】 ・延焼防止水幕防御システムを各署所に配備 ・熱画像直視装置を消火隊及び救助隊に配備 ・空気ボンベ充填用コンプレッサーを神原分署に配備	目　標	配備完了				
	実　績	配備完了				
【令和5年度運用開始】 ・運用を令和5年4月1日から開始する。	目　標		運用開始			
	実　績		運用開始			
	目　標					
	実　績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標

成果目標（指標） □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況				
		R5年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
延焼防止水幕防御システムの訓練	目　標	3回				
	実　績	3回				
・熱画像直視装置 ・空気ボンベ充填用コンプレッサー （実働部隊への配備及びその使用）	目　標	100%				
	実　績	100%				

状況説明

【R5年度】
・延焼防止水幕防御システム（火災防御訓練等で使用し、実火災に備える）
・熱画像直視装置（各隊員が装着する空気呼吸器にセットし、災害出動及び警戒出動時に、熱源の検索・確認のため常時使用する）
・空気ボンベ充填用コンプレッサー（実火災及び訓練時に使用した空気ボンベの充填で使用）

【　年度】
・

【　年度】
・

【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）	【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）
【R5年度】 ・延焼防止水幕防御システム：首里城火災防御訓練で1回、密集地火災防御訓練で2回使用している。	【R5年度】 ・今後は、大規模木造建造物や消火活動が困難な密集地域で総合訓練等を計画・実施し消防力の向上に努める。
【R5年度】 ・熱画像直視装置：年間約80件の火災出動、約500件の調査出動があり、熱源の検索・確認や、屋内進入の判断等で使用している。	【R5年度】 ・機器の使用により、要救助者や隊員自身の安全な活動が期待できる。
【R5年度】 ・空気ボンベ充填用コンプレッサー：月に13～15回程度、1回に3～8本の空気ボンベを充填している。	【R5年度】 ・可搬式であるため、大規模災害時において、災害現場へ搬送することができ、長期戦に備えることができる。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R5年度】
・今後、運用計画等に基づいて日常点検・訓練等を実施し、更なる資機材の習熟を図ることで、大規模火災時はもとより、通常の建物火災等においても災害対応能力の向上を図ることができる。
　また、総合訓練等から課題を抽出し、ワーキンググループ等でマニュアル等の整備・改訂等を行いより迅速かつ効率的な消防活動の確立を目指す。

【　年度】
・

【　年度】
・